

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

第43回中央社保学校へ参加しよう

学習を力に秋のたたかいへ

第43回中央社保学校が、10月15日〜17日の日程で神奈川県横浜市で開催されます。

第43回中央社保学校は、安倍暴走政権による戦争する国づくり、社会保障総改悪が一体となって押し進められるもとで、2年目を迎える「安全・安

心の医療・介護を求める大運動」を前進させるための中心に「大学習運動」を位置づけ開催されるものです。

社保学校の内容は、情勢に見合った学習講演やシンポジウム、社会保障基礎講座やフィールドワークなど多彩な内容になっており、明日からの運動に役立つ企画がいっぱいです。あわせて、社保運動に携わるみなさんの交流の場としても位置付けられています。

東京社保協は、中央社保学校を秋の大学学習運動の中心企画として位置付け、各団体・地域の数多くの皆さんの参加を呼びかけるものです。

参加費は、1人1日2000円、3日間通し参加で6000円です。（最終面参照）別途、参加申し込み用紙を送付します。学校の宣伝と多くの皆さんの参加をお願いします。



昨年の第42回社保学校

戦争法案廃案へ12万人が国会包囲

戦争法案の廃案と安倍政権の退陣を求める「国会10万人・全国100万人大行動」が8月30日に行われ、国会議事堂周辺及び霞ヶ関・日比谷公園周辺では12万人を超える人の行動になりました。

国会正門前や国会図書館前、日比谷公園霞門前は、あふれた参加者で歩道も車道も埋め尽くされ、身動きできない人の海となりました。

国会正門前では、野党4党首が「国会論戦と国民の圧倒的運動で廃案をめざそう」と訴え、作家の森村誠一さんや音楽家の坂本龍一さんなどが次々にマイクを握りました。「戦争法案絶対反対」「安倍政権はただちに退陣」のコールが繰り返し行われ、「戦争法案ノー」の決意を固める行動になりました。

なお、この日は、全国1千カ所、東京では国会前以外に15カ所（数十万人）で行動・集会が取り組まれました。総がかり実行委員会では、引き続き9月8日からの大宣伝や国会行動・座り込み行動を提起しています。「安倍政権を倒すまで」行動をやり抜きましょう。



八王子社保協

7月31日、「八王子の介護をよくする会」が八王子社保協を母体に、民主団体や介護事業所、労働組合など10団体が参加して結成されました。

「会」は手始めに、介護保険法の改悪と介護報酬引き下げが実施され、介護事業所の存廃を含め「介護崩壊」が危惧されている中で、介護事業所への「介護保険制度改定の影響に関わるアンケート調査」を実施して、その結果をふまえて対市・対都・対政府に要望していくことになりました。八王子地域で介護事業所アンケートを本格的に実施するのは初めてのことです。

調査は、15の地域包括支援センター圏域ごとに、介護事業業種として実績のある「居宅介護支援事業所」「訪問介護事業所」「通所介護事業所」「認知症対応型通所介護事業所」「認知症対応型共同生活介護事業所」「介護老人福祉施設」など199カ所を対象に、8月中旬から郵送及び訪問調査を行い、10月中にまとめ、11月に対市交渉を行うことになっています。（介護をよくする会報告より）

渋谷社保協

渋谷社保協は、8月18日に第24回総会を開催し50人が参加しました。

総会は、戦争法案の審議が続く中での開催ということもあり、平和あつての社会保障運動ということから、安倍政権の「戦争する国づくりを止めたい」「戦争法案は廃案に」という熱気につつまれました。

福井会長あいさつに続き、民主党区議団の治田学議員、共産党区議団の牛尾真巳議員からあいさつを受け、東京社保協の寺川慎二事務局長から連帯のあいさつを受けました。

嘉瀬事務局長が活動総括・方針を提案し、議会請願活動で介護請願、保育請願が区議会で採択されるという成果を報告。なんでも相談会では「生活が苦しいという声が増え、社会保障の充実が求めら



れている」などの活動総括を行いました。活動方針では、新地域支援事業による要支援者の切り捨てをさせない取り組みや、国保・生保の改善など、地域で社会保障改善を許さないたたかいを提起しました。

討論では、代々木法律の生駒弁護士が、「毎回弁護士を相談会に派遣してきた。相談が絶えない」と発言。守る会からは、「この7月から住宅扶助費が削減されたが、家賃の高い渋谷に住めなくなるので削減を止めさせたい」、広尾病院を守る会からは、「国は入院ベットの削減を都に押し付けた。医療・介護を受ける権利がどんどん侵害されている」、新婦人からは、「8月で公民住宅は廃止された。跡地に福祉施設を建てさせたい」と発言しました。

討論を受け、総括・方針案、予算・役員体制などを全体で確認しました。



講演する後藤道夫氏

第2部の記念講演では、後藤道夫氏（都留文科大名誉教授）を講師に「安倍社会保障改革のねらいと運動の課題」医療・介護を中心に」と題して学習しました。

後藤氏は、特異な歴史観を持ち、戦争する国づくりへの邁進、反福祉国家主義を持つ安倍首相だからこそ、その実行を保守層から期待されているのが安倍暴走政治の背景としてあることを指摘。安倍政権の社会保障改革は、社会保障の縮小であり、「国は生活保障をしない」という思想の下で、公的扶助を私的扶助に、公的保険をどんどん切り下げていくことを基本路線にしている。

財務省は公費削減のため、経産省は、医療・介護を市場化し金儲けの場にする、こういう2つの目的を達成させる立場から厚労省に改革を迫っているのが従来の「改革」と違う点であると強調しました。

（渋谷社保協ニュースより）

各地域・団体の取り組み

中野社保協

7月22日・8月26日に、55・56回の「無料・いのち・くらし・雇用、なんでも相談会」を開催しました。この「なんでも相談」は、実行委員会が主催して毎月開催しています。

相談内容は、医療機関への受診相談や、「家の中を荒らされているようだが、元カレが合鍵を持ったままだから怪しい」「行方不明だった統合失調症の息子が発見され、精神病院に入院になった」という報告。法律相談では、セクハラ・残業代未払い、相続問題、離婚、知人への貸付金が戻ってこない、など幅広い相談が寄せられています。



この相談会には、病院職員、弁護士、議員、学生など、毎回20人近くスタッフが参加し支えています。

(事務局長 塚本 晴彦)

生存権裁判を支える 東京連絡会第9回総会

7月4日、生存権裁判を支える東京連絡会の第9回総会が89人の参加で板橋グリーンカレッジで開催されました。

総会記念講演として、東京社保協の寺川慎二事務局長が「いつでも、どこでも、だれでも、安全・安心の医療・介護を」と題して講演しました。総会では、「子どもの貧困」「年金裁判提訴」の特別報告



と各地域からの報告を受け交流しました。

なお、総会において新事務局長に東京社保協の寺川事務局長が選出されました。

(生存権事務局 中野 謙司)

マイナンバー制度 反対連絡会結成

8月26日に17団体44人が参加し、「マイナンバー制度反対連絡会」結成総会を開催しました。連絡会には、中央社保協・東京社保協も参加します。

結成総会では、「マイナンバー制度の法的問題点」と題して、日弁連情報問題対策委員会委員長の坂本円弁護士



(自由法曹団)の講演を受け、9団体が討論・決意表明を行いました。

中央社保協の山口事務局長から、社保協を代表して「医療・介護の解体攻撃が激しくなる中で、社会保険料・窓口負担・利用料の負担増と給付削減の道具としてマイナンバーが活用されようとしている。社保協としても、学習・宣伝の強化と連絡会に結集して運動を広げたい」と決意をのべました。

東京社保協としても、社会保障改悪反対とプライバシーを守る立場から運動を進めていきます。

第43回中央社保学校

別途申込書あり

10月15日(木)～17日(土)
横浜市「ワークピア横浜」

参加費

各日程1人1日につき 2,000円
3日間通しで 6,000円

※昼食弁当(2日目のみ)
希望者に幹旋 お茶付 1,000円

初日 10月15日(木) 13:30～17:00

講演① 「沈みゆく大国アメリカからの警告～未来は私たちが選ぶ!～」
講師 堤 未果氏(ジャーナリスト)

講演② 「戦後70年『沖縄問題』の考え方」
講師 宮城 栄作氏(沖縄タイムス東京支社報道部長)

2日目 10月16日(金) 9:30～17:00

講演③ 「最低賃金と社会保障」
講師 住谷 和典氏(神奈川県労働事務局長)

講演④ 「戦後70年・岐路に立つ日本の平和・憲法・社会保障」
講師 渡辺 治氏(一橋大学名誉教授)

シンポジウム 「社会保障解体を許すな!安全・安心の医療・介護の実現を」
基調講演 横山 壽一氏(金沢大学教授)

3日目 コーディネーター 岡崎 祐司氏(仏教大学教授)

①横須賀軍港めぐり 7:30～12:00

横浜駅西口天理ビル前集合

②社会保障基礎講座 9:00～12:00

会場 建設労連2Fホール

主催:中央社保協・同関東甲ブロック

